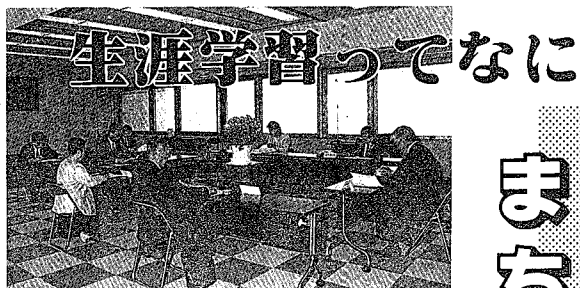


まちづくり・人づくり座談会



私の生涯学習

生涯学習って何だろう。「まちづくり・人づくり」というテーマについて、いろいろな立場の皆さんといっしょに様々な話題を交えながら生涯学習について考えてみました。

最初に、「生涯学習」という言葉について、どんなイメージを持っておられるか、また、ご自分にとって生涯学習は何であるかについて、お一人ずつ伺いました。



佐久間 宏

（元山之手第一分館長）

小黒 君

（公民館運営審議会委員）

石井 智 裕

（社会教育委員）

大竹 まり子

（生涯学習推進委員）

小林 一三

（新津市長）

司会・榎本 泰 伸

（生涯学習課長）

佐久間 宏

私は、昭和五十六年に国鉄を退職しました。もともと好奇心が強いものですから、高齢化社会にのりおかれては大変と、社会教育に関心をもって人生をエンジョイしてきました。昭和五十九年から、公民館山之手第一分館の役員をしてきました。昭和六十三年から二年間、分館長として、高齢者主体の講座を計画的に進めて、地域への還元を図ってきました。私個人としては、平成元年から県のシルバーカレッジに入学会、広く県内のかたがたと交流を深め

今やっているのは、市のスポーツ教室で、ストレッチ体操のほか、ラウンドダンスにレクリエーションダンス、コーラスの四つです。体を動かすと、汗をかくし、食事もおもしろいだけです。声をだすのもそうです。健康でなければお金は使えません。楽しんでやっていると、家族も喜んでくれています。

生涯学習という言葉は、昨年十月頃から盛んに聞くようになりました。私は、生涯学習というのは

自分の好きな趣味を楽しんでやり人生に、一つか二つプラスするものを学んでいくことだと理解しています。全国レクリエーション大会が東京にあったのですが、やはり、行くと楽しいし、生きがいにもなります。これからは、健康を大事にして、自分の好きな道を続けて行きたいと思っています。

大竹 今、子育ての真最中、それに、園芸の仕事に追われて時間不足の毎日です。

だから、毎日の暮らしの中のほかの人とかかわるを大切にしたい。その中から自分を高め、リフレッシュできればと考えています。

そんな中でも、さやかな生涯学習は、長女が小学校に入学してからいっしょに始めた「書道」。日曜日になると、子供といっしょに先生のところに通っています。

自分からやろうとする意欲さえあれば、何でも学習になるんだと思っています。

石井 今、毎日の商売に追われて、趣味もできない状態です。が、疲れをとる



ものは、エレキギターを弾くことです。

大学を卒業した時、もう、勉強は終わらだという人もいましたが、私は、生涯が勉強だと思っています。青年会議所に入ってから、いっそう、ものの考え方が変わりました。人生、金もうけだけでなく、社会とかかわりがとても大切だということを感じさせられました。今では、青年会議所の活動そのものが、生涯学習だと思っています。とてもよい勉強になっています。

市長 生き生きとした生活は、生涯学習ぶことかかるとしています。生涯学習には定年がありませんし、好きなことを一途にやれておもしろいものです。生涯学習では何をどれだけ学んだかが問われません。

学んだことを、他の人に教えてやることで、人との交流の輪が広がって、深まることにもつながります。

また、人から教わることは、自分も向上して行くものです。

生涯学習にとって大切なことは、その成果を、他の人や地域に還元

することではないでしょうか。

自分の生き方が他の人に喜びを与え、地域の活性化につながることでできたなら最高ではありませんか。

別な言い方をすれば、生涯学習は、自分自身の生き方を越えて、他の生き方に影響を及ぼすことでもあります。

まちづくり・人づくり

司会 つぎに、まちづくりとの関係に話題を移したいと思います。

生涯学習は、個人的な楽しみだけでなく、地域とつながったまちおこしとしても、大切だといわれています。

市長 平成五年年度の施政方針に、自分達の足元を見つめ直す「地域学」を提唱されていますが、地域学と、生涯学習との接点についてお考えをお聞かせください。

市長 私の言う



「地域学」というのは、特に学問として確立されているというのではありませんし、学会などで定義づけられているわけでもありません。新津市を、すばらしいまちにしたいという素朴な願いから発想したものです。地域づくりとか、地方の時代とか言っても、全

国的に見ると、やっていることは、画一的な気がします。

自分たちのまちは、他のまちとは違うのです。それぞれに個性を持っています。新津で言えば、花とか、鉄道、石油などのすばらしい素材があります。こうした地域文化をほりおこし、新津らしさを再発見して、まちの活性化につなげたのです。幸い、新津市にはレベルの高い優れた人材が潜在しています。こうした方々から、生涯学習の場で活躍していただき、その成果を、地域学という形で理論化し、体系化して、まちづくりに活せたらと考えています。

司会 それでは、地域で活動を続けておられる佐久間さん、このことについて、あなたの地域での取り組みをお話ください。

佐久間 市長さんの地域学構想とは、少し次元が低いが、私の住んでいる地域は、およそ、一三〇〇軒くらいありましかうか。この地域を、まず、豊かにしたいと思っています。これまで、様々なテーマで多くの講師からおいでいただきました。私は、皆さんが帰るとき、下駄箱でのひと言を大事にしています。ここでは、「本音がさぐれる」といいましかうか、帰りがわのつづき、次の計画に結びつきます。もうひとつ、紙一枚のプリントで



もいい、お土産を用意することになっています。地味でもいいから、口コミで伝わる盛り上がり大切ににして、住民相互のふれあいや、思いやりのある地域を目指しています。町内版、心の地域学とでもいいたいかうか。

小黒 人をみると、地域がわかると思います。私の生家は湯沢ですが、新津ともちがいますが、大きなまちですが、横浜へ行くとき、若いなあ、まちを歩く人の目の色が輝き、全体がさつそうとしています。

仙台もまた、親切であたりがやわらかいです。地域の人間性は、まちのイメージを大きく左右すると思っています。新津は何となくおっとりしている感じがします。奥ゆかしいのかな、と思ったりしています。「地域学」となると、まだよくわかりませんが、生涯学習の成果がまちづくりにつなげられれば、すばらしいことではないでしょうか。

市長 比較学というのがありますね。歴史、文化、伝統、これらはそれぞれのまちによっても違いがあります。横浜と神戸、いずれも、東京や大阪に近いのですが、それに呑みこまれないで、自己主張しているまちです。これは、やはり個々の歴史や文化にこだわって、まちづくりをしているからです。

新津市も、そうありがたいですね。

期待や要望

司会 最後にになりました。行政への期待や要望をお伺いしたいと思います。



大竹 新津の花本が全国的に有名になっていて、生涯学習のテーマとして、大いに「花」をとり上げていただいて、市民から、そのすばらしさを知ってもらいたいと思います。リーダーバンク制度も期待しています。私達も、積極的に協力していきたいと考えています。これから、私も、お互いに刺激し合い、地元のことを学んで行かねばならないと思っています。

石井 郷土愛というのは、みんな持っていると思います。全国的な視野で新津を見直し、地域学にこだわった生涯学習を、展開してほしいと思います。サークルがふえていくのは大変結構ですが、個人

の内面の充実という観点だけでなく、まちづくりという観点から生涯学習をとらえて、施策展開することも大事だろうと思います。

佐久間 リーダーの養成に力を入れてほしいと思います。指導者は研修をおこなったってほらないし、好かれる指導者であってほしい。また、行政は、地域における指導者の養成を忘れてはならないと思います。

小黒 現在、私のサークルには九十名の会員がいます。やりたいと思う人は、多少多くとも利用するものです。旧鉄道学園も、B&G体育館も、気軽に借りられるようにしてほしいと思います。

市長 ソフト部門が活性化して初めてハード部門が充足するものではないです。

その意味で、まず、市民サイドの自主的活動が大いに活性化することを期待しています。

生涯学習は、行政が前面にでてはならないです。

生涯学習のまちづくりへ、大きな夢を咲かせることにしましょう。司会 これからも、市民の学習需要を的確にとらえて、施策を推進していきたいと思っています。

本日は、お忙しいところありがとうございました。

